

令和8年度岐南町・笠松町総合教育会議 議事要旨

令和8年5月13日（水）15時00分から、岐南町中央公民館 学習室で開催した。その要旨は次のとおりである。

1 出席者

岐南町長	後 藤 友 紀		
笠松町長	古 田 聖 人		
教育長	野 原 弘 康		
教育委員	佐 藤 由 香	教育委員	岩 井 弘 榮
教育委員	久 納 万里子	教育委員	羽田野 正 史
岐南町副町長	崎 浦 良 典	笠松町副町長	村 井 隆 文
＜羽島郡二町教育委員会＞			
総務課長	岩 田 由 美	学校教育課長	安 江 政 利
社会教育課長	佐久間 陽 子	部活動地域移行専門員	河 合 善 夫
＜笠松町＞			
教育文化部長兼課長	天 野 富 三	教育文化課主幹	石 田 輝 雄
＜岐南町＞			
住 民 部 長	小野木 崇 夫	生涯学習課長	記 野 雅 之
こども未来部長	三 輪 学	こども学び課長	森 俊 文
こども学び課長補佐	椿 井 寿美恵		

2 次第

(1) あいさつ (岐南町長 笠松町長)

(2) 議題

・羽島郡地域クラブについて (二町教育委員会)

(意見交換)

・羽島郡町立小・中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

(15時00分開会)

○事務局 こども学び課長

定刻になりましたので、ただいまから令和8年度岐南町・笠松町総合教育会議を開催いたします。

本日はお忙しいところ、本会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日、司会進行を務めさせていただきます、岐南町役場こども学び課長の森と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様方のご協力により円滑に会議進行ができますよう努めさせていただきますので、ど

うぞよろしく願いいたします。また後ほど、皆様からもご意見をいただきたいと存じます
どうぞよろしく願いいたします。

これより、着座にて進行をさせていただきます。また、本日お集まりいただいております
皆様のご紹介につきましては、お手元の資料の出席者名簿をもって代えさせていただきます
す。また、会議中、記録用に写真撮影をさせていただきますことと、議事録作成のため、ボ
イスレコーダーにて録音させていただきますことをご了承願います。それでは次第に沿っ
て進めてまいります。

はじめに、幹事町であります岐南町長がご挨拶を申し上げます。

○岐南町長

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、岐南町・笠松町の総合教育会議にご出席を賜りま
して、誠にありがとうございます。この総合教育会議は、議長、また教育委員会の皆さまと
地域の教育課題の方向性について協議調整をする場であるというふうに認識をしておりま
す。どんな子供を育てたいのか、また、次世代にどんな地域を残していきたいのか、そうい
うことを共有する場であるというふうに考えております。

岐南町といたしましては、今年で、町政 70 周年でございます。大変喜ばしいことではあ
りますが、一方で、いろんな課題を抱えております。

社会が大きく変わっていく中で、教育環境も例外ではないと、いうふうに思っております。

具体的に申し上げますと、近年学校は全国的に学校施設を含む、公共施設の老朽化の問題
などが課題となっております。けれども、本町におきましても、学校施設だけではなく、町
内の公共施設の今後の維持管理や改修工事について、計画的に検討していかなければなら
ない時期にいると思っております。これは、全国的な自治体の課題であると思っております。
そういった中で、この学校という場所で、これからの時代に、子供たちにどのような学びと
環境を残していくのか、そしてそのためにどうしていくのかということを、こういった会議
を通じ、皆様とともに考えていければと思っております。

本日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。続きまして、笠松町長からご挨拶をいただきます。

○笠松町長

改めて、みなさま、こんにちは。最近暑くなってきましたね。週末には 30 度を超える
ということですが、笠松町は日曜日に水防訓練がありますので、非常に熱中症に気を付けな
ければいけないところです。ようやくゴールデンウィークも終わり本格的に始動の時期で
す。一般的には、5 月病なのかゴールデンウィーク明けになると何かやる気がない、4 月と
全然イメージが違うということで、学校で言うなら、不登校になる。会社勤めならそこで退
社される方が増えるという話を聞きました。ただ、最近は、1 年中 5 月病のような状態が続
いており、心が弱いというか考えは、偏見かもしれませんが昔と違って、社会状況あるいは
意識が違ってきたのではないかと思います。ただ、こうした中でも教育というものは、前に

進めていかななくてはなりません。そういった意味では、今年度ですが、松枝小学校が岐阜県の提唱している「異学年集団による学び合い支援事業」の実験校に選出されました。今後、どのような内容で、どういうふうに進めていくかをこれから具体的に進めていきます。こういうものは、最初から狙った通りにいくわけではありません。何事も始めてみて、切磋琢磨して、失敗も経験や学びとし、少しでも新しい発見につなげる。そして一番いいことは、子どもたちがそれぞれで大きな刺激を受け、自分自身を見つめる機会となることや、異学年の子と接することによって、特に高学年の皆さんに自覚を持っていただく機会になればと思います。そういった意味では、大変大きな収穫が得られるのではないかと個人的には期待しています。

そしてもうひとつトピックスの紹介をさせてください。今日この後始まる地域クラブについて河合先生も大変ご苦労されていると思いますが、現場の話をさせていただくと、学校の教員や、各クラブの担当の方が先頭になって運営していき、それから軌道にのったところで一番の課題は、お金の問題であろうと思います。昨日私は東京で、橋本聖子さん（JOCの会長さん）の朝の勉強会に参加していました。勉強会の中で、部活動の地域移行やお金の話がありました。その中の話で「TOTO くじ」の話があり、サッカーとバスケット両方で収益が1,500億円あるそうです。それが活性化して3,000億円くらいになれば、全国の部活動の地域移行のお金は全部賄えるじゃないかと会長考えている。そういう発想をもって、JOCの会長として先頭に立ってやっていただけるということは、非常にありがたいことです。方向性をみせていただきましたので、是非ともTOTOくじを購入して、それが地域の子どもの部活動あるいは学びのきっかけになるので、一緒になって頑張っていこうと思います。このように皆さんもいろいろなアンテナを張って、「今こういった新しい動きがあるよ。」とか国やあるいは、先ほど例にあげたJOCを含め、「団体がこんなことを考えているよ。」など情報を収集して、その中でいち早くこの羽島郡教育委員会や学校関係者の皆さんが、それに順応して、他市町に先駆けてやっていくことが大事じゃないかと思います。私もいろんな面、これからの話し合いの内容の中で1つでも2つでもその地域のためになるようなお話を持って帰りたいと思いますので、引き続き、皆さんからのご意見よろしくお願い申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。それでは本日の議題に入らせていただきます。初めに羽島郡地域クラブについて 部活動地域移行専門員の河合様から説明をお願いします。

○部活動地域移行専門員

みなさん、こんにちは。「チームH」の河合と申します。15分ほどお時間をいただいて、お話をさせていただこうと思っています。

「チームH」これが新しいロゴマークになります。岐南中学校の3年生の子が考案してくれたマークになります。「TEAM H」＝「TOGETHER EVERYONE ACHIEVES MORE」の頭文字を使ったマークです。「みんなで一緒に、より多くのことを達成する」といった意味合いです。田中勝士氏を会長とし、両町長と教育長を参与としてご協力をしていただいて

(令和8年) 4月から活動しています。

まずは、地域クラブについて保護者の方に理解してもらうのが難しいです。我々を含めて保護者達も「部活動」で育っているので、説明会としては、令和7年度から行っていますが、しっかり理解してもらえていない状況です。夕方子どもたちは、部活動を行っています。土日の部活が、地域クラブに移行しています。よくある保護者からの質問が、「学校は、部活動を地域に丸投げなのか？」河合氏「いいえ、違います。学校と保護者（地域クラブ）で協力して、対話しながらやっていきましょう。」こういった形で進めています。部活動の価値や素晴らしさは、保護者の方たちも理解してみえるので、教育的な面を継承しながらも地域クラブを発展していこうとしています。

例えば、学校の部活の『バドミントン部に入っている』場合

1. 学校で部活に入る手続きをする。→入部
2. バドミントンクラブに入ってもらう。→入会

保護者は、片方だけ入れば良いと思っている。しかし、両方入ってもらわないといけない。そういうところを理解してもらえるよう丁寧に説明をしているところです。

土曜日や日曜日に救急車で子どもが運ばれたとなったときは、学校の部活にならないので、「チームH」へ連絡してもらい、その生徒が通っている学校へ「チームH」から連絡を入れます。そういう連携のための機関でもあります。

このクラブを立ち上げる時にクラブの理念を作りました。

トヨタ自動車であれば、「環境にやさしい車造り」

ユニクロだと「究極の普段着作り」 などありますが、私たち「チームH」は、「学びづくり」、「未来づくり」、「地域づくり」と作りました。各チームのコンセプトは、各チームの指導者をお願いしております。

子どもたちの学び、未来、最終的には、笠松町、岐南町を元気にしていく。それぞれの町の問題ではなく、「チーム笠松町」「チーム岐南町」として、それぞれが一つのチームになって取り組んでいくものだと考えています。これは、教育だけでなく、教育委員会だけの問題でもない、みんなで頑張っていかなければいけないと思っています。

子どもたちがこれから成長し、笠松町や岐南町でスポーツや文化活動ができ、未来につながって、「チームH」が笠松町や岐南町を盛り上げていっていかなくてはならないと思っています。

全国的にクラブ化は進んでいる。岐阜県も進んでいる県の一つです。

クラブの目標の一つが、「対話」です。

今、メールではなく一つずつのクラブを回って、実際のクラブのリーダーの人や監督の方と対話をしています。

「何が問題ですか？」「いいところはどこですか？」対面での会話を大事に考えています。そこで聞くことで例えば「道具が・・・」「指導者が・・・」という話が聞けるので、そういうところは、私の仕事だと思っています。

2つ目の取り組みは、「指導者の質の向上」だと思います。基本的に問題なのは、指導者

が教員ではなく、保護者であるため苦情の多くは指導者に対するもの。指導者の質の問題。指導者の後継者がいない。指導者の確保をしないといけない。指導者研修会も進めていくところです。今計画しているのは、「なでしこジャパンの監督」を招いて研修会を行う予定です。

3つ目は、広報活動です。「ポロシャツ」の販売をしています。「チームH」を2つの町で広めるよう活動をしています。

「地域クラブ」って何？ということではなく理解をしてもらうために広報活動をしています。

また、中日新聞特集を組んでもらう予定です。協賛企業として、例えば松波病院や2町にある企業に協賛を依頼して、協力していただくことで持続可能な運営になっていくようにと活動しています。

4つ目は情報管理の一元化を進めています。現在「チームH」に登録した子が、今現在562人です。このシステムで登録した子のデータを預かっています。新入の子の管理も行っています。ここで照会しているシステムは、一括で行事や登録ができる。今までは、1回ずつ連絡を取って変更などしていたが、デジタルでできるので便利になっている。

例えば、「台風が接近しているので今日の練習はありません。」と入力すれば全員に伝えることができる。他にも「熱中症で昼から中止」や「クラブの成績」、「講演会のお知らせ」などもでき、それぞれのクラブで一括の管理ができます。

他の市町村もクラブ活動のアプリを使っています。

地域クラブ（チームH）もこのアプリを導入したいと思っています。一人当たり990円費用がかかります。（1ヶ月85円）

2町のご理解ご協力をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

以上です。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。それでは意見交換に入りたいと思います。ただいま羽島郡地域クラブについてご説明いただきましたが、皆様にもご意見をお伺いしていきたいと思います。順番にご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いします。それではまず教育委員さんの方から順に意見をお伺いしていきたいと思いますので、最初に、佐藤委員さん、続いて、岩井委員さんをお願いいたします。

○佐藤教育委員

教育委員の佐藤と申します。1つ目に地域クラブのこと2つ目に保護者の方から聞いている話をさせていただきたいと思います。

1つ目の地域クラブにつきまして、この事業が始まって、1、2ヶ月のこの段階でこれだけ進んでいることは大変素晴らしいことだと思います。昨年度まで校長先生として部活動に携わってみえたからこそ分かることだと思います。各クラブの指導者の方と面談をされていること素晴らしいと思います。

2つ目は保護者からの意見です。知り合いが副校長等にいるのですが、そういう方が務めている学校では、地域クラブ化への動きが進んでいないし、難しいという話を聞きます。

そもそも誰が何をやっていいか分からないし、どうしていいかも分からない。「羽島郡には、河合先生という専門の方がみえるよ。」と伝えると大変驚いてみえます。また、地域クラブに関わる指導者がたくさんいるよということを違う教職員へ伝えたところ、そこにも驚いてみえました。もちろん羽島郡地域クラブにも問題があると思います。始まって数か月の間に進められていることも素晴らしいと思います。

私は、中学生の子どもがおります。まわりの保護者から聞いた話がありますので、少しだけ報告したいと思います。好意的な意見もあります。地域クラブの加入の申し込みの手続きは非常に簡単だった。QRコードで登録するだけだった。土日も練習に参加できるし、登録費用は高いない。心配することはひとつもないよ。反対にトラブルを抱えている。と言っている方もいましたが、それはシステムの話ではなく、講師の先生との問題でもなく、保護者同士のトラブルでした。学校という場所ではなく先生が管理しないところ、地域クラブの中での保護者は、自由奔放な振る舞いになって、保護者同士のトラブルに発展してしまうケースがあり、その子どもが地域クラブをやめてしまうというケースがあるようです。

地域クラブの文化が根付いていくといいなと思います。ご尽力を感謝しております。

○岩井教育委員

教育委員の岩井です。よろしくお願いします。

河合先生にお伺いしたい。悩み事はないですか。

○部活動地域移行専門員

先ほど佐藤委員さんからお話がありましたが、ちょっとした嫌がらせを受けた。学校の中でならよくある話であります、学校の先生ではなく指導員なので、どうやって対処していいか分からない。今度、バドミントンの地域クラブに行ってくるのだが、学校であれば、いじめた子、いじめられた子両方から言い分を聞いてみると、いじめられる前に嫌なことを言っていたということがあるので、両方から言い分を聞いて事情徴収をする。そういうことが、指導者は分からない。という相談を今受けている。なので、そういう事例の対応をしているところを指導者に見てもらおうと思っています。トラブルのご相談はよく受けています。

○岩井教育委員

河合先生のご努力で今、羽島郡の地域クラブは進んでいますが、立ち上げた以上この地域クラブを持続させていかなくてははいけない。厳しい言い方になるかもしれませんが、岐南町の地域総合型クラブがありますが、笠松町にはないです。こういったものは、各市町にあってもいいと思うのですが持続が難しくなかなかうまくいかない。そのためには、河合先生、1人だけの力だけでは立ちいかなくなる。

体制の問題。それと両町の町長さんから良い話を聞かせていただきましたが、財政的なこと。やっぱり、お金の問題ですね。安定財源を考えていかなくてははいけない。その点を考えていかなくは、せっかく考えてきた「羽島郡地域クラブ」が継続していかないのではないかと

思います。もう一つの議題にも関係していくと思いますが、こういった土日の部活動を地域に移行していく。他にもたくさん地域に移行していくものがあると思いますが、うちの先生方にもお話はしたのですが、地域の方々にいろんなものを移行してお任せするということは、地域の方々がこちらを見る目も厳しくなっているということです。両町ともに民間で言うところの営業時間を短くされました。だが、一般の会社は、勤務時間を短くしているといった恩恵にはあずかっていない。そういった方々は両町にはたくさんおみえになる。なので、地域移行を「ウェルカム」と思っていない。素直に受け入れられない人もいる。そういう思いを持った人もいるということを考えて、身構えて、心構えを持って進めていかななくてはならないと思います。立ち上げには、河合先生に大変ご苦勞をおかけしておりますがよろしくお願いします。

○久納教育委員

教育委員の久納です。よろしくお願いします。河合先生本当にご苦勞さまで。地域クラブの立ち上げは、スタートを如何に上手に幅広く、いろんなところに理解を得られるかということが大事だと思います。教育委員会だけでなく、学校、両町の職員方、地域の方に関わっていただかなければならないことであって、どこかが欠けてもいけない。でもどこかが、核になってしっかりリーダーシップをとっていかなければならない。河合先生がしっかりと中心になって進めていかれているのは素晴らしいことだと思います。持続可能な事業にしていくためには、河合先生だけの努力ではなく、二町教育委員会、町の担当もメンバーは変わっていくので、メンバーが変わっても共通認識で仕事を伝えていくことも大切だと思います。日々同じことの繰り返しをしないといけないということではなく、進化はしていかなければいけないけれど、前の担当がどういう仕事をしていたか知らないではなく、きちんと引継ぎをしないといけない。そういった内側の目配りもお願いしたいです。

地域クラブに入っている生徒さんの人数が全体の半数くらいなので、500人ということ、これからもっと人数を増やそうとすると保護者の理解、保護者の負担が大きくなるという懸念があるので、解決策を見つけていってくださるといいと思います。

以上です。

○事務局 こども学び課長

教育委員の皆さまからご意見を伺いました。ありがとうございます。それでは、岐南町副町長 崎浦副町長 よろしく申し上げます。

○岐南町副町長

みなさん、はじめまして。岐南町副町長の崎浦と申します。よろしくお願いします。

地域クラブが始まりました。皆様のご意見にもありましたが、せっかく始まったいい制度なので、持続可能なものにしていかなければいけません。いかに地域の方に理解していただけるか、それには、まず活動内容を発信していくこと。情報発信が必要だと思います。多くの地域の方に理解を深めていただき、行政も協力し、持続可能なものにしていけないかと思っています。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございます。

続きまして笠松町村井副町長、よろしくお願いします。

○笠松町副町長

笠松町副町長の村井と申します。

地域クラブの移行につきましては、地域それぞれに特性がある中進捗させていくことが課題である。羽島郡においては河合先生がおみえになる、大変力強い方が携わっていただいで心強い。このような良い報告を聞かせていただいで嬉しい。地域クラブが確実に進んでいけるのだなということが伺えてよかったです。スライドの中で、アプリの紹介をいただいたと思いますが、そういった体制もしっかり整えて（必要なことは）行政も財政的な支援を含めて協力したいと思いますので、現場からの声を聴かせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

以上です。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございます。ただ今、教育委員の方々、副町長からご意見をいただきました。そのことを踏まえて羽島郡二町教育委員会 野原教育長 よろしくをお願いします。

○野原教育長

羽島郡地域クラブは、県内どこの市町にも自慢できる体制が作れたと思っています。本当に丁寧に行ってきました。昨年度から運営委員会を立ち上げ、総会を開きました。その初めの段階では、単位クラブを夜間集めて話し合い、保護者それぞれの質問に答えて対応してきました。

先ほどの話にもありましたが、他者の方の立場、視線に立って物事を進めていくことは大切だと思っています。河合部活動地域移行専門員は、土・日に各クラブを回っている。その報告書を丁寧に作ってくれています。例えば『〇〇クラブの指導者は、××といていた。』こういうのを見ていると指導者というものは、あらゆる人に見られているので気を付けないといけない。指導者の一言が子どもたちに与える影響を考えなくてはならない。

持続可能なものにしていくためにスタートの準備をしてきてくれました。アプリの問題も委員会を通して予算立てしていくかということを考えていかななくてはならない。

話しは変わりますが、文化協会の総会に先日出席しました。その時の話の中に後継者がいない問題が話にあがりました。文化的なことや運動的なことをやりたいという団体がいるのであれば、それが、将来の文化協会につながっていき最終的には街づくりになっていくと思うのです。そういったものを我々が担っているということをここに今日集まっている皆さんで考えていけたらと思っています。

地域クラブを運営していくには、お金がかかります。地域の方を巻き込みながら進めていきましょう。よろしくお願いします。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。

みなさまからの貴重なご意見ありがとうございました。今後連携して進めていけたらと思っております。よろしくお願いします。

それでは、議題の②について話し合いを進めたいと思います。『羽島郡町立小・中学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画』について学校教育課の安江課長よろしくお願いします。

○学校教育課長

学校教育課 安江と申します。『羽島郡町立小・中学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画』についてお話をさせていただきたいと思います。給特法（公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法）の一部改正がありました。その際各市町で策定し、4月1日からの施行が義務づけられました。なぜ改正されたかの趣旨について説明します。1つ目が、教員の働き方改革、2つ目は、組織的に学校運営をしていきたい。3つ目に教員の処遇改善が挙げられています。3つ目の処遇改善についてですが、教員の残業代です。教員の残業代というのは、なかなか計れるものではないということで、一律給与の4％となっております。それを今年度から1％ずつ繰り上げて最終的には、10％にしていくということです。また、職務によって手当をつけることが決められています。そこで大切なことが、処遇改善によって残業代をどれだけつけてもいいというものではなく、職務を効率よく行い、子どもたちに有益なる教育をしていきたいと思います。

教職員の給与に対する特別措置法第8条の

『業務量管理・健康確保措置実施計画の策定等』

{教育委員会は、文部科学大臣の指針に基づき、教員の健康確保と適切な業務量管理のための「実施計画」を策定・公表し、総合教育会議等へ報告する義務があります。}

この法律によって説明をさせていただきます。

2ページの中央くらいになりますが、羽島郡の場合、令和6年度の時間外は、全体の月の残業時間平均で、31.8時間です。ちなみに令和7年度を調べたところ、30.5時間ということでしたので削減はされているということです。

ここで確認したいところは、3ページの4. 実施する業務量管理・健康確保措置の内容

(1) 学校業務の見直し イ 学校以外が担うべき業務 と書かれておりますが、例えば、登下校時の通学路における日常的な見守り活動・・・この内容は、「保護者、地域住民と連携し児童・生徒を見守っていきましょう。」とありますが、学校の教員は何もやらない。ということを宣言しているのではなく、保護者の方と地域住民と連携していきましょうというものです。つまり、子どもの状況が分からず、学校の指導・支援の場で生かされないのであれば、むしろ教員の負担が増えます。しかし、これから地域との連携が進んでいくのであれば、教員の負担も軽減されます。校長会において周知してもらい、先ほどの話の「みんな」でということをして大事にして教職員の働き方を改善していけたらと思っています。最終的

には、教職員が子どもたちと元気に楽しく学校生活を送ることができることが大切だと思っています。具体的には資料に書かれていることを目標に頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○事務局 こども学び課長

ただ今、ご説明いただきましたが、何か質問等ありましたら、よろしくお願いします。

ありがとうございました。

それでは、次第の3番のその他ということで何かありましたら、よろしくお願いします。

○岐南町副町長

冒頭の笠松町長がおっしゃられていた松枝小学校が提唱されている、異年齢による学び合い支援事業に手を挙げられた経緯、実施状況、ねらい等をご紹介いただけたらありがたい。

○野原教育長

異学年集団による学び合いということですが、岐阜県のほうから依頼があり、知事もご自身の経験から、異年齢との学びの有意義さを感じてみえた。そこで、教育委員会からそういう提案を各学校へした。羽島郡で8つの小中学校がある中で、松枝小学校においては、2～3年前からイエナプランを行っていた。自分で計画して自分で学んでいく、学年集団として学んでいくことの実践をしていた。それでいろいろな方法はないかと模索をしていた。この話を聞いて、松枝小学校長がやりますと手を挙げられて、県の方へ申請をした。指定は、3校だったが、5つの市町が公募してきた、プレゼン用の最終審査で4つの市町がやることになった。予算は、450万円（上限）は補助が出る。どこの学校か紹介すると岐阜市は、教育学校。北方町も教育学校。池田町が小規模学校、笠松町の松枝小学校は、割と大きな規模の学校。それでどのような内容にするかということを考えて、ドリルをやって教え合いをするだけではおもしろくないので、この事業には、夢があって、通常の授業の中で1～6年生で行い、それぞれの学年の理解力を生かし、算数遊び、生活の中の算数、そういう活動を通し、普段の生活の中でこんなふうにならないう算数につながっているのだという実感が持てることがよいと考えた。例えば、1～3年生の団体、4～6年生の集団の中で意見を出し合って考えていく、考えたものが生活の中の算数につながっていくということが、子どもたちの学ぶ意義になっていくことは、大変面白いのではないかと。遊びの中で学べることはすばらしいと思っています。テストで100点取ることも大事。生活と算数が結びついて楽しいと思ってきてそこから、もしかしたら、将来の算数学者が生まれるかもしれない。そんな楽しみを持ちながら事業を進めていきたいと思っています。あくまでも理想です。理想のように現実はいまうまくいかないとは思いますが、今、子どもたちに算数の面白さを知ってもらうための講師派遣など行い、その講師の授業を見ながら現場の教師も学んだり、研修など行ったりして自分の授業に活かし、現場の教師が足りないときは、人件費としてお願いして予算立てをして進めていきたいと思っています。

まだまだこれからです。教育委員会・教育委員会の教育指導主事・学校などいろいろ連携をとりながら進めていきます。

○岐南町副町長

スタートしたら訪問させていただきます。

○野原教育長

ぜひ来てください。羽島郡には8校ありますので、皆さんには、それぞれ全部訪問していただきたいです。それを願っています。

○学校教育課長

3年間で実施していきます。今年度がスタートです。広く共有することも目的の一つとなっていますので講評会も考えております。松枝小学校だけでなく、2町にとどまらず、全県に発信し広げていくということですので、また随時報告させていただきます。

○岐南町長

お話を伺わせていただいて、質問ですが、松枝小学校の校長先生の思いが強かった。様々な背景があった。これは、異学年集団で学ぶということを二町教育委員会で積極的に進んでいくということですか。それとも試していくということですか。短年間である程度の結果を出すことはできると思いますが、これは、他の小中学校でも取り組んでいくのですか。

○学校教育課長

江崎県知事が一番先に使った言葉は、「異学年学級」という言葉でしたが、今は「異学年集団」となっていて、最終的に求めているのが、学校で整えた学級というのではなく、広く社会に出た場合、どこでも異年齢による集団はある。目的や場所に応じて自分たちで集団をつくりながら、そこで人々とかかわりながら生活していくので、学び合い、活動していくという意識を全体でもっていきえるようにしていくというのが、この活動の目的だと二町教育委員会でも話し合っています。この学校でしかできないものとは捉えていません。どんな学校でも他の学年とかかわり合う場面はありますので、学び合いはできます。異年齢の集団の中でどうしていくかということを学べる機会があります。

○野原教育長

あくまでもこれは検証事業なので、いいところは、2町の小中学校へ広めます。例えば、これは無理かなと思うことはやりません。二町教育委員会としてはこの事業の方針の「かかわり」というところを大事に考えていますので、先ほどの課長の話にもありましたが、集団を作って学んでいくことは、場所が変わってもできること。大人になっても大切なことそれが広がって町づくりにつながる。教育をすすめるということです。

○笠松町長

結局の大きな目的は何ですか。非認知能力の養成ですか。人間力の養成ですか。

○野原教育長

先日、北方町がテレビで放送をしました。堀教育長（岐阜県教育委員会）が見に行かれました。この間の教育長会議での話の中で、「算数」についての評価は一つもなかった。上級生が下級生に教えている姿がよかったという評価だった。非認知能力は、学び舎の中で育っていくとは思いますが、それに「算数」をいかに結び付けていくかということは難しい。「算数」は面白いということも追究したい。非認知能力と「算数」をいかに結びつけるかリンクさせていくかということを考えています。

○笠松町長

今までの学校のカリキュラムの中では取りこぼされていたこと。「算数」は目的ではなく、ツールとして扱い、事業を進めていく中で思いもしないことが起こることが楽しみということですね。決め打ちではなく。温かい目で見てください。ということですね。

○野原教育長

講評会はどの学校でも行っておりますので見に行ってください。

○こども学び課長

本日は貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。本日の会議の記録につきまして、議事録を作成しまして、ホームページで公開させていただく予定になっております。

それでは以上をもちまして、令和8年度岐南町笠松町総合教育会議を閉会させていただきます。本日は皆様方にはお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございました。